# 中国人 朝鮮人 殉難者を供養

## 正法寺（小岱山）で合同慰霊祭

二つの碑の前で催された慰霊祭

五月八日のすがすがしく晴れわたった小岱山。その中腹にある正法寺で、中国人・朝鮮人殉難者の第十二回合同慰霊祭が十時三十分から催されました。

慰霊祭は、赤星善弘師（荒尾市宮内出目金剛寺住職）を導師として境内に建立されている中国人殉難者供養塔と不二之塔の前で礼拝のあと、正法寺で追善供養、焼香が行われ、在日華僑代表、朝鮮総連代表、日中友好協会代表、酒井県議などがあいさつ、赤星師が謝辞をのべました。

第二次世界大戦中の中国侵略によって日本に強制連行され、苛酷な労働と差別待遇を受け異郷の地で尊い人命を犠牲された殉難者に哀悼の意を捧げ、永遠に平和を願うために昭和四十七年に碑が建立されましたが、三池炭鉱での出来事として忘れることはできません。ぜひ一度訪ねてみてください。

# 米本さん、待鳥さんが出展

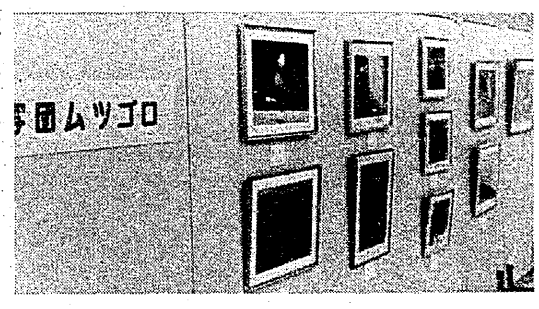
## 力作がずらり一堂に

### 第2回有明地区合同写真展開く

大牟田市、荒尾市、三池郡高田町在住のアマチュアカメラマンのグループ十七団体が共同して開いた第二回有明地区合同写真展が四月二十八日から五月一日まで、大牟田市労働福祉会館三階ホールで開かれました。

この写真展は市内の各事業所、学園、同好会などに所属するアマチュア写真家が、モノクロ、カラーなどの風景、ポートレート、ヌードなど多様な作品約二百点を持ち寄って開かれたものです。最終日はメーデーとあって大勢の人びとが会場を訪ずれました。

この写真展に三池労組の米本隆義さん（一分会・四山）が「紬の里にて」「瞳の印象」「ヌード」を、待鳥英勝さん（二分会・四山）が「声援」「春の海」を出品されました。両氏はグループ『写団ムツゴロ』に所属して腕を磨いています。




『写団ムツゴロ』のコーナー

# 楽しかった団結旅行

## 荒尾・三小校区の地域分会と主婦会が合同で植木温泉へ

恒例のように五月八日、三小校区地域分会、主婦会の合同旅行を行いました。梅雨を思わせるような雨続きの中で、幸い五月晴れのよい天候に恵まれ、総勢二十七人（うち子供七人）の参加で鹿本郡植木温泉の荒木観光ホテルへ。

人数や、バス配車などの都合からか、行きも帰りも野添社宅の新労の皆さんと一緒でした。宴会場でも一緒になり、歌や踊りなどで大いににぎわいました。

同じ炭鉱に働く労働者として、労働者はどうあるべきかなど、ちょっぴり意気投合する場面もありました。

（宮原正満・記）

# 三池労組カメラ愛好会主催

## 第二回 写真展のお知らせ

とき　五月二十三日から二十五日まで

ところ　組合事務所会議室

出品受付　五月二十一日（土）まで

三池労組カメラ愛好会の展示会は、好評を得て毎年開催できるようになりました。今回はとくに、目の保養になる作品も見られそうです。

皆さん、ふるって出品してください。また、ぜひご覧ください。

（三池労組カメラ愛好会）

# 女坑夫の語り聞きから

## その五

## 賣勘場

十六分会（本所）　武松輝男

「売勘場には何でんありましたバイ。米、麦、アワ、そば、うどん、それに味噌、醤油、塩、砂糖、マッチ、薪、魚と野菜、肉、日用品に雑品、雑貨、反物、化粧品、石油、ワラジ、ガンヅメ、ツルハシ。

これらば〝カヨイ〟と言うとりましたが、通帳でカケ買いすることができましたデス。

わたしどんが使われたのは、赤い線が入った〝赤ガヨイ〟でしたデス。黒か線が入ったつは〝黒ガヨイ〟テ言うて、会社に貯金がある者か、係員サン（職制）だけでした。黒ガヨイは配達バしてくれよりました。

わたしどんは、ああた、貯金バ持たんもんで、赤ガヨイでした。赤ガヨイは、朝、出勤する時に世話方さんに出しとくと、出勤した日は三十銭か五十銭の、売勘場で買われる金額バ記入してもらわれとりました。

三十銭か五十銭テ言うのはですナ、坑内の仕事が違うと、日給も違うもんでですナ。それで、その日の購入金額が変っとデス。

一日出勤すると、定約米バ、オナゴじゃけん五合、安う買われよりました。一升九銭でしたバイ。三等米は台湾米とも言うとりましたバッテン、三等米が一升十二銭でしたケン、定約米は安かったデス。三年も勤めとくと、定約米バ七銭で買われよったデス。

二等米、内地米ですナ。これは二十四銭しよりました。

坑内デン、稼ぎのよかもんが、二等米バ買おりました。

わたしどんが定約米バ買おりますとですナ、そん横さん来て、二等米チ、太うか声で言うとですたい。憎たらしかつがおったですバイ。そんかときは、悲しゅうなるもんで、よけいに腹ン立つとですたい。

それで、二等米は腹持ちン悪かテ憎まれ口バたたきよったデス。するとですナ、定約米は臭うして食わるるか。猫デン食わんテ言うとデス。

ほんなこて、定約米は臭かったですもん。そしてヒキンなか。ポロポロしとったデス。

会社バ休んだ日は、三等米バ買おりました。それバッテン、値段が高かったもんで、一銭でン安ぐなるごと、乾うどんバ細かく折って、それバ混ぜて炊こりましたデス。乾うどんには、ちいっと塩気ンありまっしょうが、それで結構うまかもんでしたバイ。こんなら菜はいらん、テ言うて食べよりました。

二等米は、たまあに買おったデス。子供ン遠足のときデス。二等米バ買わんと、ニギリ飯バ握られんでしたもん。こん二等米にもモチ粟バ混ぜよりました。米ンとこバ握り飯にしよりましたデス。

売勘場には何デンあったデス。それバッテン、出勤した日にもろうた三十銭か五十銭バ全部使うと休んだ日に飯バ食われんごとなるもんですケン、目の保養バするだけでした。わたしもオナゴですケン、着物も化粧品も、そりゃあノドから手の出るごつ欲しかったデス。それができんじゃったデス」

（カットも筆者）

# 釣りキチ余談 第二十六回

## 楽しく釣ろうの巻

石田鈍竿

ギャンブルに植木、ドライブ、山登り、日曜大工、カメラなど人それぞれいろいろな趣味があり、結構余暇を楽しんでいる人も多いが、とくに釣りは健康的である。俺は海に面して竿を延ばすと頭がスキーッとする。

釣行前は、瀬の研究をする。船頭に現地状況を問い合わせ、現地の気象を最寄りの気象台へ電話で聞く。出発当日にはもう一度確かめてから出発する。

釣り場に行って、ただ竿を出せば魚がむこうからやってきて釣れるというものではなく、潮の流れ、時機、ポイント、周囲の状況などあらゆるものを考え計算し、または考えながら釣りをするのである。

とくに釣り人にとって大事なことは、どんなことをしてでも釣れればいいというものではなく、他の釣り人に迷惑をかけない、ということを基本にしたマナーがある。

西海国立公園九十九島によく遊びに行くが、オジカ瀬で〇〇釣りクラブの役員名入りのヤッケとバッヂをつけたベテラン風の釣り人が、断わりもなく割り込んできてさんざん邪魔をされ頭にきた俺が大声を出したことがあったが、最近このように自分本位の釣り人が多くなったことは残念である。

天草下島の魚貫（おにき）崎へI、M両君と、寒グロを狙って地磯の一番瀬にあがった。久しぶりに好調で、型のいいのを立て続けに三人交互に釣りあげた。

妙なもので、その釣り場から十五メートルほど離れている隣続きの二番瀬に二人いたが、穂先が曲がる様子もなく退屈そうに釣っている。こんな時は、鼻高だかという気持になれないのは不思議である。

『腹がへったのォ、一杯飲もうか』

I君から声をかけられ、釣り座を離れた思いおもいにキューッとひっかけ、かあちゃん手作りの握り飯をほうばりながら雑談していると、二番瀬にいた一人が岩を伝って私たちの所へやってきた。

『釣れよるごたるですねぇ』

『そちらはどげんですか、おかげで何枚かもらいました』

『私の所は、ウキの奴がピクンともせんとですたい。あつかましかばってん、お宅たちが飯食べよんなざる間だけでよかけん、ちょっと釣らせてくれんですか』

大きな瀬で釣る場合、二、三組の寄り合いになるので、断わりなしの割り込み、邪魔などで腹のたつことがたびたびあるのだが、この言葉を聞いて、今までのことがスーッと溶ける思いがしてうれしくなった。

『どうぞどうぞ、私たちは今からが飯ですけん遠慮せずにゆっくり釣らんですか』

うれしくてたまらないのである。飯の時間をゆっくりと延ばし、ついでに寝転んで煙草を吸いながら雑談をした。

一時間ぐらい経ったろうか、彼が釣り座を離れる時も『ありがとう』といって頭を下げることを忘れなかった。

その日は一日中が楽しく、素晴らしい釣行であったことを今でも思い出す。